

トラック乗務時の安全販売している。販売が全教育などに比べ、見落とされがちなフォークリフトの安全対策。フォークリフトの労働災害における死傷者数は毎年2000人前後であるにもかかわらず、作業員一人ひとりの意識に任せきりで、同製品は、ICタグと磁界で衝突事故を防ぐための安全補助装置。ICタグを持った

い物陰も検知し、導入した企業からは「見えない場所の人に気づくことができるようになった」「作業者とりフトマンの安全意識が向上した」などといった声が寄せられている。同社営業部の塩田浩久主任は「建設業で

調節が可能。倉庫や工場などで利用出来る様に開発したICタグは、持ち運びや作業の邪魔にならないコンパクトサイズなのも魅力だ。電池は最長約3年と長持ちし、タグの電池残量を確認する機能も追加されている。

マトリックス ICタグと磁界で 衝突事故を防ぐ

対策を講じていない企業も多いのではないだろうか。

2015年3月に販売を開始してから、現在まで約5000台を

さらに改良できるように取り組みたい」と話す。なお、同社は27日から29日まで東京国際フォーラムホールEで開催される「緑十字展2021」働く人の安心づくりフェアin東京」に出展し、安全管理をメインテーマに4種類の製品を展示する。

ICタグ専門メーカーのマトリックス（大阪市北区）では、フォークリフトによる労災事故を軽減できる「ヒヤリハンター」を



（写真左から）福永十夢氏、塩田主任、小野山浩通氏

（木村麻理奈）